

一般社団法人 日本医療催眠学会
第9回学術大会

つながる

～混乱から新しい統合のための催眠の役割～

日 時 2022年10月30日（日）

9:30～18:00

会 場 オンライン（ZOOM）開催

主 催 一般社団法人 日本医療催眠学会

大会長 藤原 真理子

Japan Medical Hypnosis Association.

 日本医療催眠学会

第9回学術大会のご挨拶

萩原 優（日本医療催眠学会理事長、イーハトーヴクリニック）



日本医療催眠学会もおかげさまで10周年を迎えることができました。

今回は第9回の学術大会となります。10月30日(日)、藤原真理子理事が大会長としてオンラインで開催予定です。藤原理事は催眠療法の経験も豊富で、独特の感性をお持ちです。また、本学会の創設時から理事を務められ活躍されております。今回のテーマも魅力的ですし、大会長を中心に理事、並びに関係者が誠心誠意準備を進めております。

会員の皆さまも、是非、この日程を空けておいて下さい。内容も充実しておりますし、必ず参考になると思いますので、多くの方々のご参加をお待ちいたしております。

本学会の素晴らしい点といえば、学会を支えている理事の方々、学会員の方々が良識をわきまえて、お互いを尊重し合いながら年月を重ねて来たことです。このことは、学会にとりまして、誇りであり、とても重要だと思っております。

それは、セラピストがセッションに際して、クライアントを尊敬して共感をしつつラポールを形成することが第一歩となります。その事は、実はセラピスト同士にとっても大切なことです。ですから、ヒプノセラピストは催眠のテクニックが上達するだけではなく、人間性を磨くことが求められます。

催眠は潜在意識につながるものが基本となりますが、様々な方法で潜在意識につながります。潜在意識については、まだ、わかっていない事が数多くあります。ですから、それに伴い、手技も多様化し、これからも新しい手法が生み出される可能性を秘めております。10年後、30年後、50年後に催眠の形態は変化するのか楽しみです。更に意識に関しての解明がされるに従い、社会の中での催眠療法の担う重要性が益々、増してきます。

世話人の方々、理事の皆さまを中心として、催眠に興味のある会員の皆さまと共にこれからも着実に歩み探求して行くのが本学会の役割です。

第9回学術大会開催にあたり

藤原 真理子（日本医療催眠学会理事）



第9回学会学術大会は「つながる」をテーマに、昨年引き続きオンラインで開催する運びとなりました。

2020年からの新型コロナウイルス感染の蔓延によって、世界同時に人と人、人と社会との関係が変わる経験をしました。現在も様々なことが大きく揺らぐ中で一人ひとりが「あなたにとって、本当に大切にしたいものは何ですか?」と問われていると感じています。

催眠とは、不確定な揺らぎ状態に誘導し、陰に隠れて気づかなかった何かに気づき、新しいつながりを結ぶことができる状態。未来予測が難しい大きな揺らぎの今、催眠が何をつなぐのか、もっと大きな何かと繋がるのか、催眠には人生が現れ、人生を動かす本当のパワーがあります。

催眠の臨床、人生の経験や思いを皆様と共有し、催眠と医療、福祉、家庭、スピリチュアルなど、新世代の催眠を発見していただきたく、理事の皆様のご尽力で素晴らしい皆様にご登壇いただきます。

また今回は、参加者同士や参加者と登壇者の対話の時間をとる新しい試みを致します。距離が離れていてもオンラインで気軽につながれますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Hypno-Coaching : The New Frontire in Client Care / ヒプノ・コーチング：クライアントにおける新たなフロンティア

リンダ・ジョイ・ローズ (ナチュラル・ウエルネス・アカデミー)

【概要】

コーチングとヒプノセラピー、この二つの組み合わせにより、クライアントはより長期的に良い行動変容の結果を生み出すことができます。今回はこの二つの側面からのアプローチ、関係性についてお話していきます。簡単に使えるテクニックもお伝えします。サンプルセッションを行い、ブレイクアウトルームでの練習を予定しております。また私たちの習慣形成に関与する脳の中の神経伝達物質についてもお伝えしていきます。



【プロフィール】

リンダ・ジョイ・ローズ博士は、潜在意識の力学と暗示のパワーに関する世界的専門家であり、すでに多くの国でスタンダード療法化している、子供時代のトラウマを見つけだして癒すためのシステム、『ヒプノ・ポテンシャル』を開発したことで知られています。全米催眠療法協会国際開発総監として、今から30年前の1992年に初来日し、500人以上の日本人ヒプノセラピストを養成しました。その後世界各国で教える中、自己免疫疾患を患い、食生活の改善により病を克服した体験から、2012年に著書「プロフェジョン・リビング」を出版し、翌年、よりホリスティックで健康な在り方のための「ナチュラル・ウエルネス・アカデミー」を設立しました。

今回ホスト役を務める大槻麻衣子理事は、1998年に日本でローズ氏に師事し、20年後の2018年にロサンジェルスで開催されたIHF国際催眠連盟シンポジウムに参加した際にローズ氏と再会。今回基調講演を戴く運びとなりました。

『転移と憑依』 つながる能力としての『転移』

中島 勇一 (全米催眠療法協会ABH 認定講師)

【概要】

転移は、催眠現象とも捉えることができます。相手の無意識の中の気持ちが自分に移ってきて、知らないうちに占領されている。つまり、知らないうちに無意識の気持ちに乗っ取られているからです。

言葉のわからない赤ちゃんが、自分の状態を母親に伝えるために、自分の心を、母親の心に投げ込むことで、母親が赤ちゃんの気持ちと同じになって、つながる。

これが転移の始まりです。

転移を『憑依』という観点から、わかりやすく解説します



【本文】

転移は、無意識の中に切り離された気持ちが、居場所を求めて、他の人の心に移ってくる現象です。

移ってこられた側の心は、知らないうちに相手の心に占領されます。相手から移ってくるのは、無意識の気持ちだから気づかないのです。

相手の気持ちが自分に転移していると、自分はその気持ちと一体になって、乗っ取られた状態です。

自分の気持ちだと思っているこの気持ちが、実は、相手の気持だと気づくことで、乗っ取られている状態から、“つながっている状態”に変わり、さまざまな援助が可能になります。

私がよくクライアントから「いつの間に催眠に入れたのですか？」と聞かれるのは、クライアントが切り離れた気持ちとつながるからです。

解離が、心を守るための「切り離す能力」であるなら、転移は、切り離された心の「つながる能力」です。転移を『憑依』というメタファーを使うことで、わかりやすく説明します。

【概要】

シューマン共振やソルフェジオ周波数を操り、長きにわたる海外での活動を経て、幅広い音世界を癒しの音へ昇華する「音の錬金術師」中嶋 恵樹さん。

ソルフェジオ周波数や、シューマンレゾナンス、そして身体の部位や症状に働きかける周波数を取り込んだhealing soundを発表。無限の潜在意識への鍵を開ける宇宙とつながる音は、それを体験できる時間となることでしょう。



【プロフィール】

ヨーロッパへ行く途中タイの音楽業界にて活動を開始し、10数年アジア中心にヨーロッパも含め、各地を音楽のフィールドワークの旅をする。メイン楽器はギター、その他バリ島の竹笛「スーリン」インドの民族音楽楽器「シタール」ギリシャの伝統的な弦楽器「ブズーキ」をはじめ、琴やシンセサイザーなども奏でるマルチプレイヤー。様々な旅先で出会った楽器を駆使し、独特のサウンドを全国各地でライブ展開中。

子宮筋腫～私の赤ちゃん～

【概要】

約一年前に診断された子宮筋腫。私は近年、生理の症状が重くなったのは、子宮筋腫が原因だと思っていました。そこでIHCのソマティックヒーリングセミナー受講時、子宮筋腫と対話することをテーマにセッションを行っていただきました。すると、子宮筋腫がなぜ存在するのか…思ってもいかなかった理由が語られたのです。

ソマティックヒーリングならではのダイナミックな体験に心から感動した私の実体験をご紹介します。



【本文】

ソマティックヒーリングの手法の中で、ミクロの自分になって子宮に入り、子宮筋腫と対話する方法でセッションを行いました。セラピストの誘導で子宮内の子宮筋腫を探してみると、浮かんできたイメージは「赤ちゃん、でした。子宮筋腫と人格交代すると、九年前、赤ちゃんが宿ったと思って名前までつけて喜んでいたのに、いざ検査してみると妊娠しておらず、悲しんだ経験が思い出されました。そして本当は、お腹に入りたかったけれど、ある理由でそれが出来なかった赤ちゃんの意識が、筋腫となって子宮に存在していることがわかったのです。今回ソマティックヒーリングを体験したからこそ知ることのできた、赤ちゃんの存在やその気持ちに驚き、心を動かされました。

ソマティックヒーリングは、体との対話を通じて様々な情報を得られる、可能性に満ちた手法です。今後もっと多くの方々に知られ、活用される手法となることを願っております。

『難聴の方への催眠療法』

竹田 千穂 (オウルサロン)

【概要】

難聴があっても催眠療法は出来るのか、クライアントとして催眠療法を受けることは出来るのだろうかと悩む方もいるのではないのでしょうか。

2020年より、社会ではマスクをすることが当然のようになり、その中で暮らす難聴者は、口の動きを読むことが出来ず、彼らへの負担は大変大きいものとなりました。その中でストレスと、ご自身の症状に向き合うために催眠療法を選択した方の症例をご紹介します。



【本文】

先天性ではないが左耳は全く聞こえず、右耳は聞こえにくいが大声なら聞こえる難聴のクライアント。コロナ前は口の動きなどから会話を行ってきたが、コロナが蔓延し、皆がマスクをつけるようになり、口の動きが見えないことで本格的に生活に支障が出始める。怒りや悲しみ、傷心等、メンタルが厳しい状態になり催眠療法を受けた40代男性の症例報告。年齢退行療法、ハイヤーセルフ療法で無意識下だった「耳が聞こえなくなったのは、母のせいではないか」という不信感に気づくが、本当は自分の不注意からの出来事だったことを知り、幼少期の自分と対話をした。

あまり多くを語ることはなかったが、とても納得している様子で、言葉ではない感覚で大きな癒しが起きた。ハイヤーセルフからのメッセージに背中を押された様子で、目を輝かせていたことが印象的だった彼の症例を紹介し、難聴の方への催眠療法の方法、様子などを報告する。

「最善・最適へ導く潜在意識の御業」

石渡 賢代 Atelier・Feather Heart (アトリエ・フェザーハート)

【概要】

広大で深淵なる領域（潜在意識）にアクセスし、レスポンスを得るヒプノセラピー。それは時にクライアント様からの問掛けへの回答の域に留まらず、極めて重要な内容をも齎します。その多彩なストーリー展開と有効性に触れる度、幅広い活用度のあるこの療法に益々魅了されます。

クライアント様・セラピストの予測を超えて展開された事例のご紹介を以て、この深淵なる領域の奥深さと完全性の再認識を共有させて頂ければと思います。



【本文】

事例1) 腫瘍を持ち闘病中のクライアント様

「病気の原因は？」に対するレスポンスは過去世。長女である自分は、小さな弟や妹の世話に追われる母親の負担になるまいと、自らの甘えたい気持ちを封印し、母親のサポート役に徹して奮闘。愛を受けることを回避して一生を終了。今世、同一の母親の元に、今度は次女として転生。因果が解明され、「ならばもう病気のお陰で、余りあるほど愛を受けた。」と口にされるも、病の真の理由を理解させるべく、潜在意識は身体との対話へと運んでいきます。

事例2) 起業家としてスタートラインに立たれたクライアント様

身体パーツとの対話を進めるうちに、お腹周りの脂肪が呈してきた予期せぬ重要内容。ご本人様が未だ有意識化出来ていなかった、ビジネスを軌道に乗せていく為に不可欠なテーマが解き明かされます。

不安の高いクライアントと軽催眠下のイメージでつながることの有用性と注意点

北条亜季（九段こころのクリニック） 後藤牧子（九段こころのクリニック、日本医療催眠学会理事）

【概要】

コロナ禍において、社会全体の不安の高まりに応じ、心療内科においてもコロナに関する不安を訴える患者は増加傾向にある。

当院では不安の治療において不安の低減方法として軽催眠下でのリラクゼーションやイメージを使ったアプローチを取り入れている。

今回は、コロナ禍の心療内科クリニックにおける現状をお伝えするとともに、不安の強いクライアントに対する軽催眠下における不安の治療の有用性と注意点をご紹介します



【本文】

当院では、コロナやそれに伴うライフスタイルの変化に関して不安を訴える患者が増加している。特に不安の高い患者に対してはカウンセリングで、リラクゼーションや不安の軽減を行うが、その際に軽催眠状態でイメージのやりとりを行う場合がある。例えば、軽催眠状態で体の感覚に集中したり、安心できる場所のイメージを話してもらうことは、その人の中にある安心する能力を刺激し、本人の不安に対処する力を高めることができる。一方で、強い不安を持つクライアントであるからこそ、イメージへの焦点化がきっかけとなり、逆に不安を喚起させてしまう場合もある。催眠を用いて不安の治療をする場合は、その人の状態やその人の持つパターンをよく観察し考える必要がある。

今回は不安の高いクライアントに対し軽催眠状態におけるイメージを利用した事例から、その有用性と注意点、そしてヒプノセラピストとして気を付けたいことについてご紹介する。

前世療法事始

山川亜希子（翻訳家・作家）

【概要】

ある時、アメリカ旅行で見つけた一冊の本、少し読んでその内容と優しいエネルギーに惹かれました。それが私たちの催眠療法との出会いでした。その頃の思い出や数々のエピソードを思い出すままにお伝えし、今真実の自分に目覚めることの大切さについて、私の思いをお話ししようと思います。



【プロフィール】

翻訳家。東京大学経済学部卒業。夫・紘矢氏とともに海外生活を体験。外資系会社勤務。夫の退官後、ともに翻訳の仕事始める。

共訳に『アルケミスト』（パウロ・コエリョ著、角川文庫）、『聖なる予言』（ジェームズ・レッドフィールド著、角川文庫）、『カミーノ—魂の旅路』（シャーリー・マクレーン著、飛鳥新社）、『心を癒すワイス博士の過去生退行瞑想』（PHP研究所）など精神世界のご著書多数。

プログラム	大会:9:30~17:20	交流会:17:30~18:00
9:30~ 9:40	開会の言葉	理事長 萩原 優
9:40~10:00	大会長挨拶	理事 藤原 真理子
10:00~11:30	招待講演 リンダ・ジョイ・ローズ博士 Hypno-Coaching: The New Frontier in Client Care ヒプノ・コーチング：クライアント・ケアにおける ニュー・フロンティア 司会：大槻 麻衣子／通訳：福濱 恵子	
	=休憩10分=	
11:40~12:10	「『転移と憑依』つながる能力としての『転移』」	中島 勇一
12:10~12:30	=お昼休憩=	
12:30~13:00	「宇宙と繋がる音」	ギタリスト 中嶋 恵樹 司会：萩原 優
13:05~13:20	学会理事会報告	
13:20~13:50	参加者交流会	
	=休憩10分=	
14:00~14:20	「子宮筋腫～私の赤ちゃん～」	神田 亜紀
14:20~14:40	「難聴の方への催眠療法」	竹田 千穂
14:40~15:00	「最善・最適へ導く潜在意識の御業」 石渡 賢代	
15:00~15:30	「不安の高いクライアントと軽催眠下のイメージでつながることの有用性と注意点」 北条 亜季・後藤 牧子	
	=休憩10分=	
15:40~16:40	招待講演 山川亜希子 「前世療法事始」 今、真実の自分に目覚めることの大切さについて	
16:40~17:10	参加者感想シェア	
17:10~17:20	閉会の言葉	副理事長 橋元 慶男
17:20~17:30	= 準備 =	
17:30~18:00	参加者登壇者全体交流会	

お問合せ：一般社団法人 日本医療催眠学会 大会事務局 taikai.jmha@gmail.com

所在地：〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-18-9

ニューライフビル202 イーハトーヴクリニック内

TEL：070-4388-7102

学会ホームページ：<http://japan-mha.com>